

漢字に強くなる秘訣

さて、ようやく、漢字に強くなる秘訣を語る機会がやってきました。もう、あなたにはおわかりではありませんか。それは、いままでにながながと語ってまいりましたように、「ことばを最初から漢字で教える」ということです。こうすれば、むだなほねおりをしないで、子どもたちは、漢字を正しく使う習慣を、身につけることができます。そして、この習慣ができあがれば、どんなに能力の低い子どもでも、かならず漢字を正しく使う力がつきます。こうして、「漢字に強くなる」ことができるのです。

この点については、第四章で、詳しくお話したいと思います。

一字を知って十字を知る法

この「ことばを最初から漢字で教える」ということは、石井力式の第一基本原則で、いわば、「漢字に強くなる」ための、もっとも基本的なものです。「鬼に金棒」の鬼のからだをつくることにあたります。このうえに、金棒を持つことができたら、もう絶対にだいじょうぶです。ではその金棒とは、いったいなんでしょう。

それは、漢字を体系的に教えることです。これは、もっとも科学的な、

もっとも合理的な教え方です。このような教え方をすれば、子どもたちは一字を知って、十字を知ることができ、教わらない漢字を、読んだり、意味を知ったりすることができます。

十字を知るための一字の教え方

もう何年も前のことになりますが、「全国漢字漢文教育学会」という研究団体の依頼で、「漢字指導の実際」を多くの先生がたにお見せしたことがあります。全国から集まった大学教授から、高校・中学・小学校の何百人という先生がたを前に、わたしが、小学五年生に、国語の勉強をさせるところを見ていただいたわけです。場所はお茶の水女子大学の大講堂でした。

勉強している文章に、新しいことば(漢字)として、「噴火」ということばがありました。わたしは、この噴を、「口」と「賁」とに分解し、「賁」は「フン」という音をもち、「内部のものを外に出す」という意味をもつ部品であることを教えました。

つまり、「噴」は、その構造から、「フン」という音であり、「口」から外にものをはき出す」という意味の字である、ということがわかるのです。「噴火」は「火山の火口」から、火をはき出す」ということになります。